基本方針（テーマ）3

快適な生活を支えるみちづくり(2)

すべての人にやさしい歩行空間を創出します



1 山形県の現状

県内には道路の幅が狭く、市街地部で歩行者が多いにも関わらず、**歩道も十分に確保できない道路が多数存在**しています。



道路の幅が狭く、歩道が十分に確保できない所は、電柱や標識などが歩行空間をさらに狭くしている場合があります。

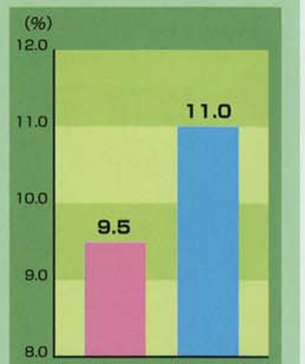
無電柱化の実施により、快適な歩行空間が形成されます



無電柱化により、快適な歩行空間となった国道112号

【無電柱化率(平成17年度)】

※幹線街路のうち無電柱化されている割合



資料：国土交通省

平成17年度を振り返って

市街地部を中心に電線類の地中化を進めましたが、まだまだ無電柱化率は低い状況です

2 平成17年度に実施した代表的な取り組み（達成度報告書）

使いやすい歩道にするため、市街地部を中心に電線類の地中化や歩道の拡幅などを実施しました。

無電柱化率	目標達成
平成17年度	
目標	実績
9.4%	9.5%

取り組み1 （県）鶴岡停車場線（鶴岡市末広町）

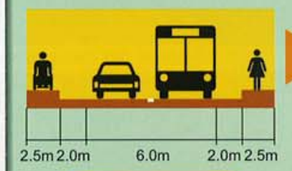
電線類の地中化に合わせて歩道の拡幅を行い、バリアフリーの歩行空間を形成しました。

整備前



整備後









道路利用者の声

◆鶴岡駅からおりると電柱や電線が無くなったことで、まちの眺めが非常に良くなりました。
◆また、雪を溶かしてくれる消融雪設備もできたことで、安全で歩きやすくなりました。
（鶴岡市町内会長）

取り組み2 （県）山形朝日線（山形市旅篭町）

電線類の地中化を行い、快適な歩行空間を形成しました。

整備前



整備後





道路利用者沿道住民の声

◆電柱や電線が無くなって見通しが良くなり、空もきれいに見えるようになりました。（薬局店員）
◆電柱があった場所は歩道が狭く歩きにくかったですが、電柱が無くなり歩道の幅が統一され歩きやすくなりました。（歩行者）

平成18年度以降への反映

引き続き市街地部を中心に効率的な整備の推進を図ります

3 平成18年度の代表的な取り組み（業績計画書）

すべての利用者にとって快適な歩道にするため、引き続き住民の皆様のご理解とご協力を得ながら、無電柱化を進めていきます。

無電柱化率	
平成17年度 実績	平成18年度 目標
9.5%	10.3%

取り組み1 （県）米沢高畠線（高畠町横町～大町）





歩道のない区間に3.5mの歩道を整備します

取り組み2 （県）山形朝日線（山形市城南町）

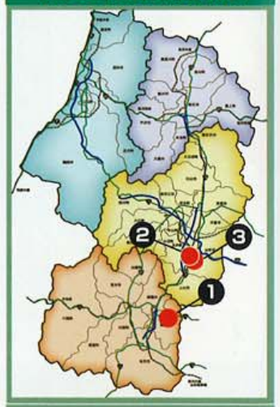


現況歩道幅員 3.0m → 整備後歩道幅員 5.0m



電線類の地中化を行い、歩道の拡幅も行います

平成18年度代表的取り組み



❶ (県)米沢高畠線高畠町内
❷ (県)山形朝日線山形市内
❸ 国道112号山形市内

※（県）：主要地方道及び一般県道を示します